

令和8年度蒲郡市自主防災会リーダー研修アンケート結果について

1 参加者数について

- (1) 5月10日(日) 塩津中学校 64名
- (2) 5月17日(日) 大塚中学校 39名
中部中学校 64名
- (3) 5月24日(日) 形原中学校 113名
三谷中学校 107名
- (4) 5月31日(日) 蒲郡中学校 98名
西浦小学校 82名

(内訳)

自主防災会(内44名女性)	494名
施設管理者	31名
避難所開設担当職員	42名
計	567名
※内防災士	12名

2 研修内容

(1) 座学

- ア 自主防災会について
- イ 自主防災活動の必要性について
- ウ 避難場所・避難所について
- エ 避難所開設について

(2) グループワーク

グループを3つに分け、建物確認、災害用トイレ切り替え、避難所利用者登録票の記入体験を実施してもらう。

(3) 資機材展示、体験

- ア ベット、パーテーション
- イ プライベートルーム(更衣室、授乳室を想定)
- ウ 仮設トイレ
- エ ペット同行避難スターターキット

(防災コンテナ内確認)



(災害用トイレ切り替え)



(避難所利用者登録票の記入)



(座学)



(避難所資機材展示及び体験)

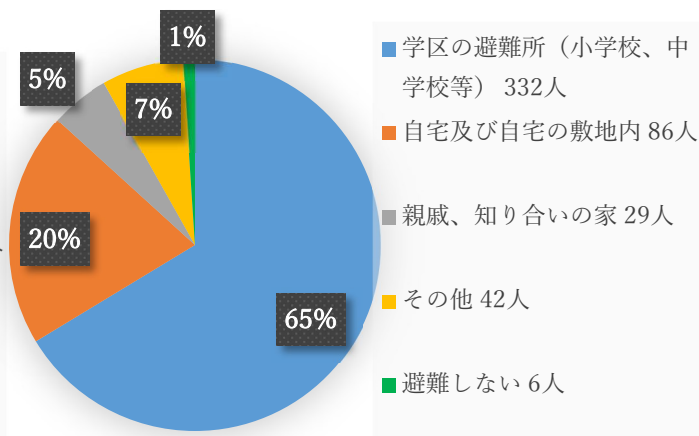
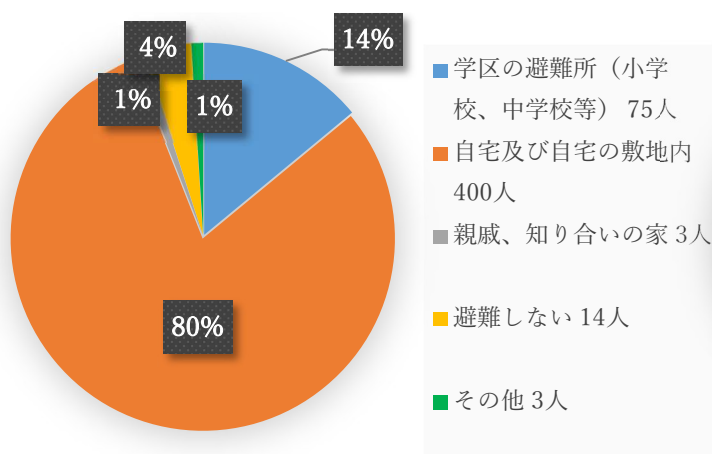


3 アンケート集計について（アンケート回答者495人）

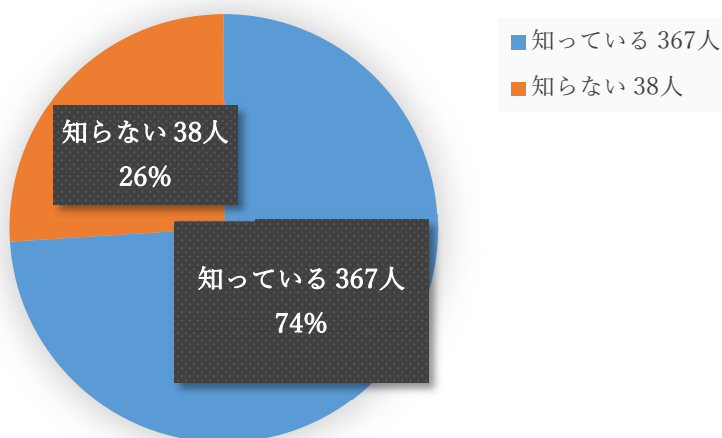
（1）南海トラフ巨大地震が発生した場合、どこで避難生活をしますか。

①自宅が被災していない場合

②自宅が被災した場合



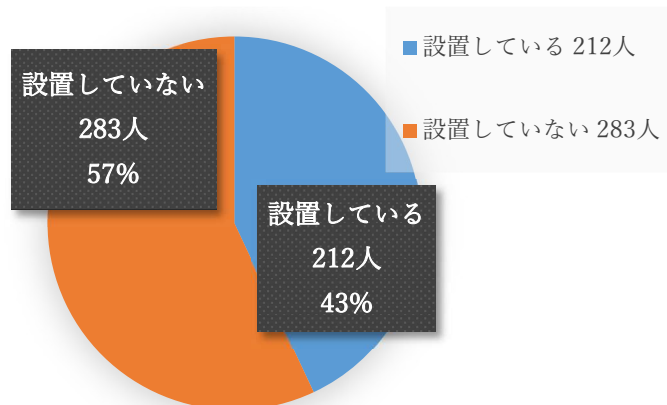
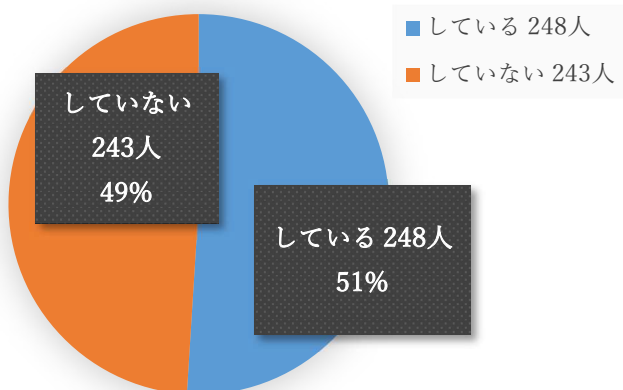
（2）ご自身の指定避難所（避難生活を行う場所）をご存じですか。



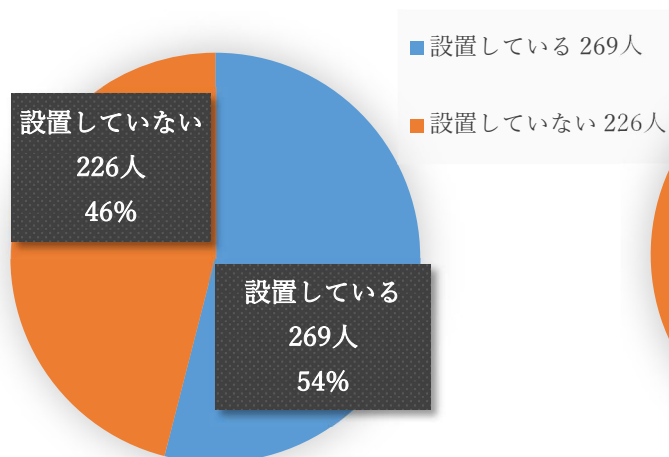
（3）地震に対するわが家の安全対策について教えてください。

①家具の転倒防止について

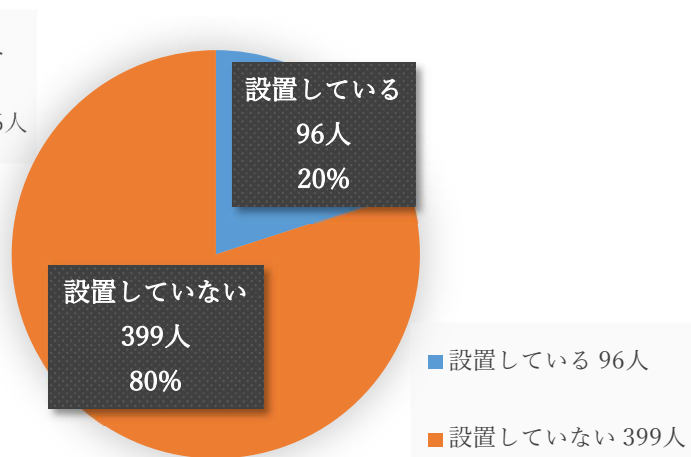
②自宅に消火器の設置



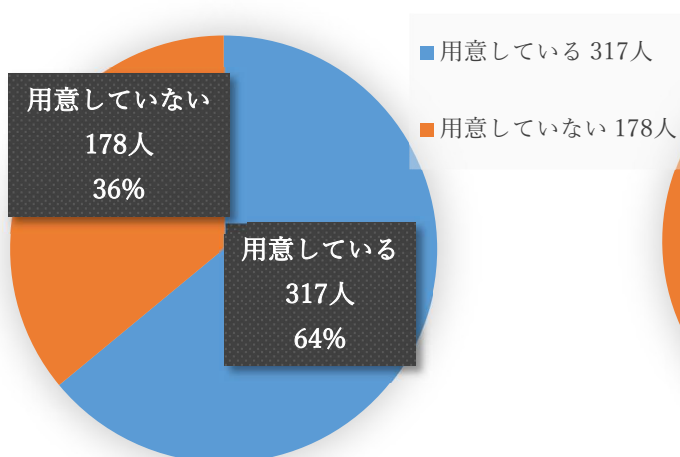
③住宅用火災警報器の設置



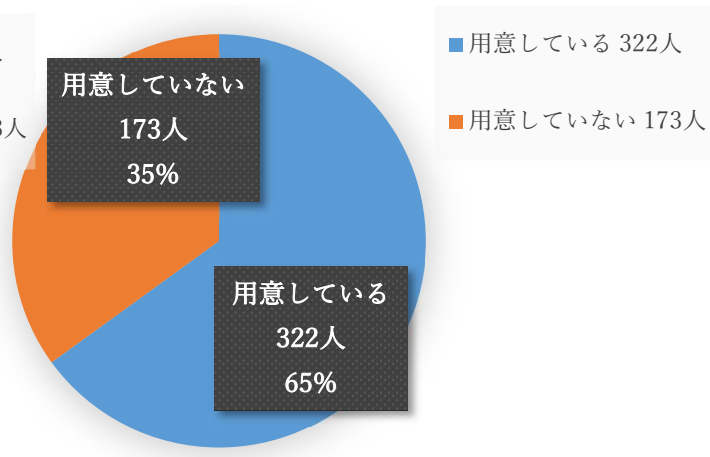
④感震ブレーカーの設置



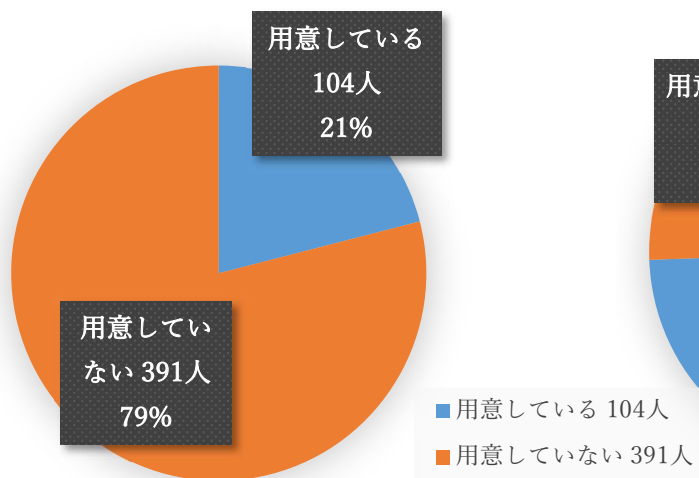
(4) 災害用の備蓄品について 非常持出袋



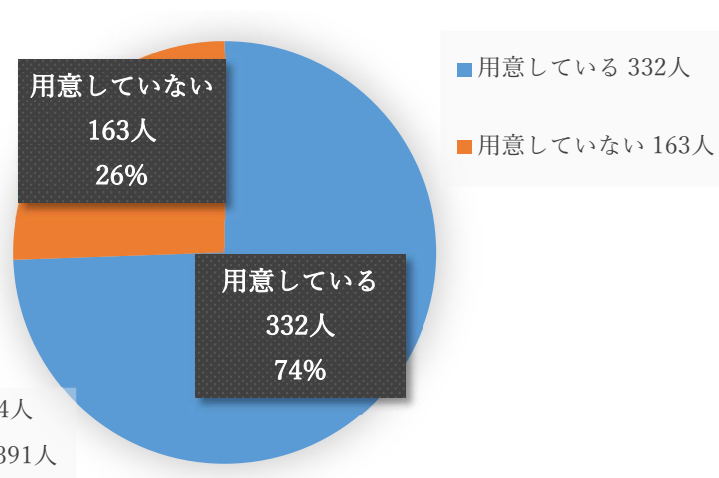
食料 (3日分)



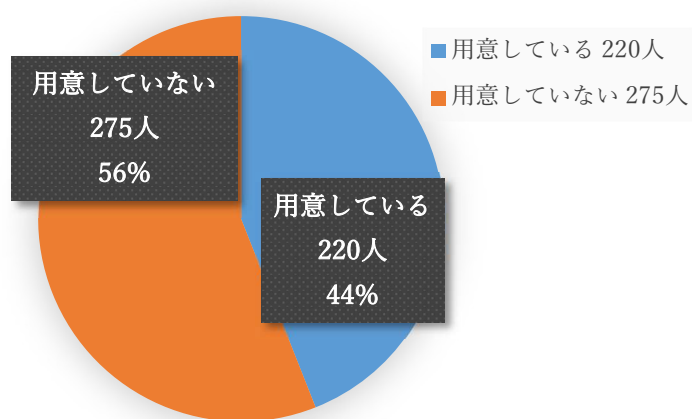
食料 7日分



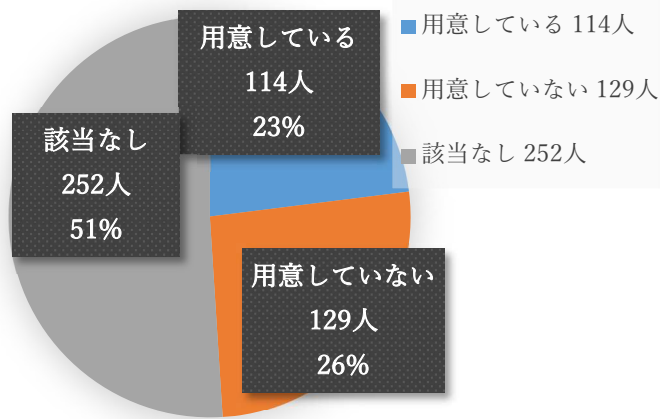
水・生活用水



災害用トイレ



ペット用品



4 検討事項

(1) 参加者数について

広く市民に自助、共助の必要性を周知するために参加者を正副総代、正副隊長、また避難所で多様な考え方が重要という観点から地区で参加を希望する方、女性や防災士の参加を依頼しました。その結果、昨年を大幅に上回る567名の方に参加していただき、各地区の防災への関心の高まりを実感しました。また避難所運営において施設管理者との関りが重要であるため、学校の先生方にも参加を依頼、さらに避難所開設職員は地区の方々の顔合わせも兼ね、グループワークにも積極的に参加してもらいました。

避難所での活躍が期待される女性参加者は567人中の44名と昨年よりも20名も増え、地区防災の担い手として重要な役割となる防災士資格取得者も12名参加いただき、防災に関する意見交換のいい機会となった。

今回は事前にご連絡いただき、蒲郡市青年会議所委員の方が自主的に参加して下さった。防災士の資格を持つ方も多く、それぞれの地区で防災の担い手となっていきたいとの意向を確認した。今後も市の防災イベントや地区の防災訓練等に広く参加していただく。

(2) グループワークについて

避難所開設の3本柱と考える、①建物の確認、②災害用トイレへの切り替え、③避難所利用者登録票の記入を体験していただく。各セッションに担当者をつけることで質問や意見を言いやすい環境となり、地区の要望や備蓄に関する提案、避難所に対する不安を直接聞くことができた。今後の避難所開設セットの充実や備蓄資機材の更新計画の参考となるような意見を多数いただいた。

また避難所利用者登録票の記入体験は特に反響が大きく、訓練で事前に用紙を記入して自宅で保管させるという体制を取ってほしいという総代区も多く見られた。

(3) アンケートについて

今回はアンケートの中で南海トラフ地震が発生したときの避難生活をどこで行うのかについて調査した。80%の回答者が自宅が被災していない場合、自宅での生活をのぞんでおり、全員が避難所生活を余儀なくされるという思い込みを正すよい結果となった。今後の方針としては、在宅避難という考えを広く波及し、自宅での備蓄品の充実や転倒防止や感震ブレーカーといった安全対策の徹底を進めていかななくてはならない。

自宅の備蓄品に関しても、全ての項目で昨年度を上回る数字を出しており、市民の防災意識の高まりを実感しました。それと同時にペット用品の備蓄に関しては、回答者の約半数が準備していると回答をいただいたが、ペット同行避難まで防災計画を間に合っていないご家庭の現状を感じた。各家庭での家具転倒防止などの安全対策及び感震ブレーカー等の火災対策については現状維持という状況だった。

(4) 研修全体について

昨年度までは質問時間を研修の最後に設けていたため質問しにくい環境を作っていたかもしれない。しかし、グループワークの中で質問する時間を設けたため、活発な意見や簡単な質問等が増えたことで、参加者の防災意識に関係なく率直な意見交換ができたように感じる。参加している防災士からは今後の計画の参考になるご意見をいただき、女性参加者からも女性目線での避難所運営の提案をいただいたことは非常に大きな成果であった。

(5) 研修終了後について

例年、ホームページには研修資料とアンケート結果をアップしてきたが、今年度は研修中に要望が多かった、避難所利用者登録票と避難所開設アクションカードのデータも公開することとした。また、地区の防災訓練の中で、登録票を事前に書いておきたいや地区の届出避難所でも開設アクションカードを用意したいという意見を多数いただいている。

今後、地区で行う防災講話や学校で行う防災教室でも同様内容で進め、広く多くの世代層に防災に対する共通認識を増やしていきたい。

※上記は市ホームページに掲載します。